


# 研究の原点は「身近な疑問や興味」と知ること、生徒が「生涯学び続けたいこと」を描けるようになった

## 王子総合高校（東京・都立）


テーマ ▶ キャリア教育 目的 ▶ 生涯学び続けたい気持ちを育てる

### スタディサプリ for SCHOOL 活用法

2年次キャリア教育  
4月 スタディサプリ for SCHOOL 『適性診断』



適性診断後すぐに結果がわかり、自分に合う仕事や学問分野を検索できる。「自分の居場所が見つかったら、生徒はやる気になります」と望月先生。




6月 『学問探究BOOK』

「研究＝難しいと考えがちですが、若い人が多く登場し、ファッション、アート、マンガなど、高校生にとって身近なテーマが多く楽しかった。私は全部読みました」と望月先生。

7月 オープンキャンパス事前講座

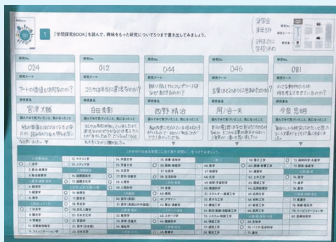
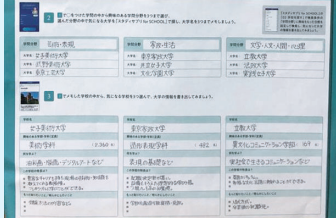
8月 スタディサプリ for SCHOOLを活用してオープンキャンパス参加



オープンキャンパスの予約のほか、大学や専門学校で開催するイベントの検索や予約もできる。

1月 『学問探究BOOK』ワークシート提出

生徒は1年間の探究学習を通して興味をもった研究テーマを5つに絞る。教員はワークシートを参考に、3年次での科目選択と進路のアドバイスをしていく。

取材・文／丸山佳子

生徒たちがグローバルな視野でキャリアの実現ができるように、100を超える選択科目がある王子総合高校。しかし大学進学率は開校以来40%程度で推移し、2021年は最も低い数字を記録していた。「問題は、充実した選択科目があるのに、生徒たちは『あの授業は面白くない』など、目的意識なく感覚で選んでいることでした。キャリア教育も3年間の流れができておらず、生徒は自分の好きをどう探し、どう磨けばいいのかわからない。それが2021年に私が着任したときの状況です」

そう話すのは、翌22年に進路部主任になり、わずか1年で開校以来初の大学進学率50%超えを達成した望月末希先生だ。進学率アップに役立ったのが「スタディサプリ」。榎野治和校長が前任校で活用していたため、導入を即決し、活用できたことが大きかったという。

**課題**  
体系的なキャリア教育ができず、40%台を推移する大学進学率を上げるには

「高校の総合学科は、漠然とやりたいことを探しに入学してくる生徒が多い。そうした生徒たちに高校の3年間は、『自分が生涯学び続けたいことは何か』を授業選択によって探すためであると、伝え続けてきました」

進路部主任になった望月先生は、まずこの考え方を生徒に徹底。生涯学び続けたいことを具体的に探す2年次のキャリア教育には「スタディサプリ」を活用した。「スタートは『適性診断』。その場で診断結果が見られるので、好きなことや学びたいことがわからずに悩んでいる生徒も、適性がある分野や仕事について考えることができます。6月からは『学問探究BOOK』を使った探究の授業。101人の先輩たちの研究内容と研究を始めたきっかけが書かれていて、研究の原点とは、おむね身近な疑問や興味だということが

**活用**  
『適性診断』で好きを見つけ、『学問探究BOOK』で研究を身近なものにする

よくわかります。『研究者は遠い存在』と思っていた生徒たちも、この本を読んで『生涯学び続けられるものを探そう』という気になってくれました。興味あるテーマが絞れてきたら、次はオープンキャンパスの予約。この年から見るべきポイントなどをリクルートの方に講演してもらいました。そして3校は比較研究する。12月にはグループワークの課題研究発表をして、1月には自分が興味あるテーマを『学問探究BOOK』から5つに絞り、3年次にゼミ形式で学ぶ分野を決定する。学ぶことが面白くなれば、進学率は自然と上がります」

2年生の研究発表は、1年生と3年生にも聞いてもらい、教員だけでなく生徒の意見を大切に、「社会に出て通用するたくさんのおもしろさを持ちなさい」と指導しているという望月先生。希望者だけに限っていた全国模試を2年生まで全員実施にしたことも、1年間で大学進学率12%アップの一因だという。人間は環境で変わる。キャリア教育を変えるだけで、進学率が大きく変わるという好事例だ。



右から  
校長 榎野治和先生  
進路部主任(取材時) 望月末希先生(美術)

### School Data

創立2011年／総合学科(男女)生徒数703人(男子248人、女子455人)進路状況(2023年3月実績)大学108人、短大6人、専門学校等84人、就職11人、その他11人